

住民自治型福祉施策について

安 齋 多実男

〔質問〕福祉施策における、「自助・共助・公助」の中で、自己決定力を持ちつつ、仲間づくりと交流によって自分の生きがいを構築し、自助を育てる老人クラブ活動。

サービス提供型、施設利用型の公助が福祉施策の中で目に付いているが、今後扶助費の増加、高齢・少子化の中

で、共助の部分の、住民が主体となって健康・福祉・生きがい作りを運営できる、住民自治型福祉施策が重要になるのではないかと思うが、市長の考えを伺いたい。

中島踏切問題

平 間 知 一

〔質問〕白石柴田線の中島踏切の道路拡張と歩道設置について、朝、夕などは仙台く白石・白石く仙台方面の通勤者の車が多いにもかかわらず、踏切内が狭く、車が片側だけしか通れず渋滞しており、道路交通に大きなネックとなっており、解決方法を見出せないまま現在に至っている。

踏切拡張、歩道設置について、市としてどのように取り組んでいるか。

また、平成17年11月から県の予算が休止となっており早急に実施できるよう、再度、県に働きかける考えはないか伺いたい。

〔答弁〕【市長】地域のつながり、コミュニティの希薄化は、都会の話だと考えていたが、現在は地方でも顕著になってきていると思うている。

例えば、隣近所にだれが住んでいるかわからない、また、近所の子どもたちをしかることができないなどである。

その結果が、子どもを虐待する親が出てきたり、親をあやめるような子どもが出てくる、そして秋葉原で起きたような「だれでもよかった」的

な殺人が行われる。これは、地域のコミュニティに限らず、人と人とのコミュニティ自体が希薄になってきたためではないかと思うている。

自助、また近所での共助ができれば、すばらしい地域の活性化ができると思うている。

そのためにはそれぞれの意識をそれぞれが持つことが大切であると思うっており、自治会、老人クラブ、団体に対する認識を広げていただきたい。自主防災組織などもコミュニ

かけたい。

また、工場の増設が実現すれば交通量が増加することなどが見込まれるので、踏切改良は要望したいが、最も重要なポイントが用地の確保であり、これができるかどうかが一番大きな問題になっている。

〔質問〕白石柴田線の中島踏切の道路拡張と歩道設置について、朝、夕などは仙台く白石・白石く仙台方面の通勤者の車が多いにもかかわらず、踏切内が狭く、車が片側だけしか通れず渋滞しており、道路交通に大きなネックとなっており、解決方法を見出せないまま現在に至っている。

現在、その地権者との話し合いはできない状況であって、地元自治会長を中心に話し合いを持つようとしている。

県への工事促進の要望についても用地問題が解決できる状況になれば、積極的に働き

ニティー維持の一つと想っており、お互いがこの組織に加わるにより、相手の安否を気遣うなど、地域の結びつきを保つことができると思っている。

